

採血をお受けになる方へ

回生病院 臨床検査部

■採血とは

「採血」は病気の診断、治療法の選択及び治療効果の判定をする上で欠かす事のできない検査のひとつです。検査のために、体の中を流れている静脈という血管より血液を採取します。採血は多少の痛みを伴いますが、極めて安全性の高い手技です。しかし、稀に合併症(併発症)を引き起こす事があります。

■採血を受ける際にご協力頂くこと

医療安全の確保を徹底するため、採血を受ける方には次のことをご協力頂いております。

●本人確認

「検体間違い防止」のため、採血直前に氏名を名乗って頂き本人確認をいたします。

●採血スタッフに知らせてほしいこと

- *採血時に気分が悪くなる方
- *消毒薬(アルコール)にアレルギーをお持ちの方
- *抗凝固薬を服用されている方
- *採血部位が指定されている方(透析患者など)
- *その他、採血に関してご希望や不安な点がある方



●止血操作

採血後、2-5分の圧迫止血をお勧めしています。

■採血に伴う『合併症』について

ごく稀に次のような合併症が起こる場合があります。

●皮下血腫

穿刺後の不十分な止血操作により、穿刺部が青く腫れることがあります。時間は少しかかりますが、徐々に元の状態に戻ります。

●アレルギー

採血時の消毒薬(アルコール)などで、かゆみ、発疹をはじめとするアレルギー症状が出現する事があります。

●血管迷走神経反応

心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされています。神経が興奮し、急激に血圧が下がるため、めまい、気分不快感、意識消失などを引き起こします。

●神経損傷

採血後に手指に広がる痛み、しびれなどが生じ、一定時間経過した後も持続します。皮膚層近くの神経は個人差が大きいため、神経損傷を100%防止することはできませんが、通常の採血では太い神経の断裂などの可能性は低く、損傷は軽度で症状は軽く一時的な場合がほとんどです。

